4月

# パストラール尼崎

卯月

No154.2025(R7)年3月25日
〔編集・発行〕
パストラール尼崎
尼崎市潮江１丁目１０-２
Tel. 06-6493-0521
Fax.06-6493-0301
発行責任者：竹田　憲之

## ◆4月の歳時記◆

### 『流出する日本の優良品種』

春ですね～。店先には色鮮やかな果物がズラリと並んでいます。最近は、イチゴも本当に甘くて練乳が必要ないくらいです。春のみかんも外皮を剥くと中の薄皮からポロっと実がとれます。特に果物は糖度など、どんどん品種改良されている印象があります。夏のシャインマスカットなどは、皮ごと美味しく食べられる事に当時は驚いたものですが、そこに至るまでに何年もコツコツと品種改良を重ね研究してきた人達の存在があった事は言うまでもありません。

しかし、そんな苦労を踏みにじるような国が残念ながらあるようです。日本の研究者が苦労を重ねやっと出来たブランド品種の種や苗をいとも簡単にもち出し、自国の広い面積の土地に作付けし、●●国産として海外に輸出、膨大な利益を生み出しているというのです。

今や高級果物となった「シャインマスカット」もそのターゲットとなりました。その開発は１９７３年、広島で始まりました。３３年もの間、時間とコスト、そして研究者の努力でやっと実を結んだシャインマスカット。広島の農研機構でその開発に一番長く関わった山田昌彦氏は「今世紀最大のヒットじゃないかと思った」と述べています。そのすべてが海外流出してしまいました。正規ルートで本来得られた権利使用料は年間１００億を超えるはずでした。また石川県が開発した高級ぶどう「ルビーロマン」は、限られた農家だけに苗を配布したはずなのに、すでにその時には海外の業者から栽培の問い合わせがあったと言います。なんとも腹立たしいのですが、農水省によると優良品種は、ほぼ海外流出しているというのです。イチゴの「章姫」「レッドパール」やデコポン（不知火）もそうです。自国が開発したようにして海外に大々的に輸出するって厚顔無恥もいい所ではと怒ってはみたものの、「日本が品種登録していなかったからだろう」と言い返され、その脇の甘さも認めざるを得ない状況に・・・泣

以前、平昌オリンピックでカーリングの日本女子選手が休憩中に美味しそうに食べていた韓国イチゴが注目を浴びましたが、「そのイチゴは以前に日本から流出した品種を基に、韓国で交配されたものが主だ！」と当時の農林水産大臣が指摘しました。よほど腹に据えかねていたのでしょう。経済学者も「ほぼ野放し状態のため、盗まれ放題の状態になっている。日本政府は本気で厳罰化などの策を講じるべきだ」と話しています。産みの苦しみのなかった国々で今、「シャインマスカット」の品質低下が問題になっているそうですが、愛情の無さが原因かも・・・。

## 1867年のパリ万博

４月１３日、いよいよ大阪・関西万博が始まりますが、日本が初めて万博に参加したのは１８６７年の「パリ万博」でした。ただ、その頃の江戸幕府は末期状態で指揮系統が機能せず、日本国として統一した出展ではなく「幕府」のほか「薩摩藩」「佐賀藩」も別個に出展。薩摩藩は独自に使節団や勲章を作ったりし、海外にその混乱した日本の状況を露呈します。ただ、出品した陶器、漆器、武具、衣服などは高い評価を得ます。特に「和紙・絹製品・漆器」は、パリ万博のグランプリを受賞！いわゆるこれが「ジャポニズム」ブームとなっていくのです。また変わったところでは、パリ万博一の人気となった「日本茶屋」。江戸柳橋の芸者「かね、すみ、さと」の三人が日本髪と着物姿で常駐し、御座敷の上でキセルを吸ったり、手毬を突いたり、扇で仰いだりという日本の日常を演出、さらに、希望する人がいたら、みりん酒やお茶を土間の縁台でサーブする、というのが売り物でした。当時のチョンマゲ姿の万博使節団の写真を見ると、袴の折目がビシッとついています。日本を背負って遥々パリまで来た当時の侍たちの緊張感が伝わってきそうです。（あの１万円札の渋沢栄一も同行しています）

## 奈良の『寝倒れ文化』

４月１７日は、“春の日帰り旅行”の日。行き先は『奈良』ですが、近いようで案外知られていない「奈良」。例えば「大阪の食い倒れ」「京の着倒れ」**「奈良の寝倒れ」**と言われ、奈良は「何もしないで、さっさと寝て身上をつぶす」と言われてきたようです。昔から、大仏目当てに観光客がわんさと押し掛けたので、生活に対し何の心配もなく生きていけた奈良県人の無気力さを表したとも言えるらしいのですが、確かに奈良駅前の商店街も８時になれば店のシャッターが閉まりガラーンとしていて商売気がなさそう。汗　大阪船場では「養子は大和から」と言われたほど奈良県人は順応性が高いのも特徴らしいのですが、「大仏商法」の名残か、のんびり屋のわりに金銭にはシビアとも・・・。年収は平均的なのに金融資産残高では全国のトップ層にいる奈良。「女性の家事労働時間は1位、学習塾費用も1位。ピアノ普及率１位、空気清浄器普及率１位のデーターからお父さんがサラリーマンで、子供にはしっかり教育を与え、家庭は専業主婦が切り盛りしているという“昭和スタイル”の奈良の家庭像が見えてきます」と分析する評論家もいます。“定価”販売のコンビニ普及率の低さも全国１位だそう。